

博士課程教育リーディングプログラム現地視察報告書(平成28年度)

博士課程教育リーディングプログラム委員会

機関名	東京大学	整理番号	K01
プログラム名称	ソーシャル ICT グローバル・クリエイティブリーダー養成プログラム		
プログラム責任者	石川 正俊	プログラム コーディネーター	國吉 康夫
<p>1. 進捗状況概要</p> <p>(1) 中間評価で指摘した改善・要望事項について、非常にハードルの高い要望ではあるが、真摯に受け止め、検討され実施されつつある。</p> <p>(2) 本プログラム開始後最初の3年次(博士課程1年)編入生として参加した学生が平成28年度に3年生になり、学位審査が開始される。学位審査の手順や評価方式が既に学生の所属専攻と評議され、整備されている。また、本プログラムの入試・学位審査委員会で博士論文の内容にも立ち入って評価し、グローバル・クリエイティブリーダー(GCL)のミッションをクリアした学生にのみ、本プログラム修了が学位記に付記される。なお、本プログラムの修了審査に合格できず専攻単独で修了認定されるケースも制度上想定されている。</p> <p>(3) 本プログラムへの支援は平成30年度末で終了する。平成28年度修士課程1年生に進学した学生は32年度に修了することになるが、31、32年度の予算の確保が喫緊の課題となっている。本支援期間終了後の支援について大学本部としての明確な方針が定まっていない中で、本プログラムの執行部は企業からの寄付金の募集、ワークショップへの企業参画など、自助努力でのプログラムの継続を模索している。</p> <p>(4) インターンシップでは、海外と国内の組合せが確立されつつあり、文系のインターン先充実のため、経験者報告会での情報共有の取組を始めたことは好ましい。</p> <p>(5) アカデミア志向の学生が多いと中間評価時のアンケートにはあったが、多種多様で刺激的な学外の組織や人材との接点をもつ機会が次第に充実してきていることもあり、過去に比べアカデミア以外への志向がやや強くなってきたと感じられ、非常に良い傾向と思われる。</p> <p>(6) 中間評価時には、優れた個々の取組や成果をプログラムの学生や教員と共有できれば、更なる発展が望めると指摘したが、学生主導でのコンペ優秀者の表彰や、ベストプラクティス事例を動画配信するなど、学生が互いに切磋琢磨していることはとても良い。</p> <p>2. 意見(改善を要する点、実施した助言等)</p> <p>(1) GCLはグローバル、クリエイティブ、リーダーの3つをクリアした人材とならなければいけないが、学生にはまだその自覚が乏しいようにも見受けられる。多様な学生が育てばよいとする考えもあるが、様々なプログラム遂行の際に口を酸っぱくして学生にこのミッションを伝える必要があるのではないか。また、ワークショップなどではともすれば研究プロジェクト的なものが多くなっていくのは致し方ないが、グローバルな課題を前面に出したような議論の場があってもよいのではないかという学生もいたので、是非検討していただきたい。</p> <p>(2) 本プログラムは、視野が広がる、人的交流が活発である、研究室の壁がなくなるなどの点で学生から評価されている。ただし研究室でのテーマ設定が本プログラムに沿って自由にできる学生がいる一方で、研究室での研究と本プログラムでの教育が二重になり、負担増となっている学生もいるようであり、指導教員との密</p>			

な話し合いの場を設けるなどの調整の工夫をしていただきたい。

- (3) 英語力強化については、本プログラムが提供する場やコースを更に活用し、英語でのコミュニケーション機会を増やしていくことが望まれる。
- (4) 学生の就職に際しては、学生が本プログラムで学んだ内容や、優秀さをアピールしてもらえるように所属専攻の指導教員とのきめ細かい連携が必要である。そのため、大学全体として学生のアピールに取り組んでいただきたい。
- (5) 本プログラムのような教育プログラムは研究プログラムとは異なり、10年、20年のスパンでの人材育成の評価が必要であるので、あらゆる手段を講じて継続させていただきたい。